

座談会

市内大学の学長と市長が語る

21世紀の教育のあり方

市長 本日はお忙しいところ、東京家政大学の清水 司学長、西武文理大学の佐藤英樹学長、武蔵野短期大学の高橋暢雄学長にお越しいただいております。皆さんには、日頃から

市政へのご協力、特に教育の充実に多大なるご支援をいただいております。感謝申し上げます。また、清水先生におかれましては、昨年、勲一等瑞宝章受章の栄に浴されましたが、これは先生の教育に対する永年のご功績が広く認められた結果であり、心からお祝い申し上げます。

清水 ありがとうございます。また、このような機会を作っていただいたことに感謝いたします。

市長 本日は「21世紀の教育のあり方」というテーマでお話をいただ

くことになっておりますので、よろしくお願いいたします。

1・行政と大学が手を携え

生涯学習社会を構築していきたい

市長 まず、生涯学習社会への対応についてのお考えを聞かせていただきたいと思います。

清水 21世紀は生涯学習の時代と言われています。このような情勢の中、一昨年のケルンサミットで、生涯学習の目的と希望」というケルン憲章が採択されました。首脳会議で生涯学習についての宣言が出されたのは初めてです。これからは今まで以上に激動の時代となることが予想され、それをふまえ、長い人生の中で常に学習できる体制を」ということを趣旨にしたのがケルン憲章です。

市長 生涯学習という言葉は広く使われていますが、一言で言えば、市民が年齢を問わず、いつでもどこでも、自分の学びたい分野について学習できる」ということだと思います。清水 そのとおりですね。私は



清水 司氏
(東京家政大学学長)
昭和23年早稲田大学理工学部卒業。同大の学教授、総長。その後、日本私学振興財団理事長などを経て、平成5年から現職。この間、旧文部省中央教育審議会会長、東京都教育委員会委員長などを歴任。平成9年文化功労者表彰。平成12年勲一等瑞宝章を受章。

常々、大学の垣根を外して地域社会と融合することが、これからの21世紀には大切になると思っています。市長はご存じだと思いますが、アメリカには「コミュニティカレッジがあり、大学と合わせて3千500校が、完全に開放されています。そこに高齢者がどんどん入ってきている。これはパートタイムスチューデントと言って、単位累積加算制度で学位もとれるんです。こんなふうには、アメリカでは社会と一体となって学べる体制を、大学が常に提供しています。

市長 そうですね。実は狭山市でも、高齢社会の中で高齢者の持つエネルギーをもつ一度社会に役立ててもらおうと、昨年から狭山シニア・コミュニティ・カレッジを開校しています。パソコン、ハングル、英会話生

きがい、歴史、レクリエーションなど1年間のコースです。卒業後は、市内のさまざまな教育分野で指導にあたってもらうことを考えています。この「コミュニティカレッジ」には応募者も非常に多く、学ぼうという意欲を持っている市民がいかに多いかがよく分かりました。

佐藤 生涯学習のために、さまざまな教育機能をお互いに関連付けて総合的に整備・充実しようとすることを「生涯教育」といいますが、清水先生や市長がおっしゃるようになら、生涯学習を目指す人が単位をもらいたいという人ばかりではないと思います。「単位」というのは、世界の生涯教育の中ではどのように扱われているのでしょうか。

清水 欧米先進国では社会に出ている人の半分以上が高校卒業です。そういう人たちが更に専門的なものを得て自分を高めていくということに対して、たとえば学位を取得すること、社会での評価が上がる、そのためには単位を累積していかなくてはならないんです。そして、もう

一つは、自分の教養を高めるための手段ということ。欧米先進国では、社会がその学習の評価をきちんとしていきます。反面、日本ではまだそれができていないんです。

佐藤 そういう動きが出てきたときのためにも、現在市で行っている生涯教育では、個人がどの講座を受けたという記録を残しておいてほしいと思います。

市長 はい。コミュニティカレッジで一定時間学んだ人には卒業証書を出します。将来は高齢者が堂々と本を脇に抱えて、アメリカの学生みたいに市内を歩き、子どもたちや市民が、その人に質問できるような社会を作りたいと考えています。それが私の目指す真の生涯教育で、そういう姿を見れば子どもたちも将来に對して安心すると思うのです。

清水 市長、大学の社会における役割ということを少しお話したいのですが、こんな構想ができています。県内53大学が加盟している協会があるのですが、その中の西埼玉地区の大学で交流協定を発足させる予定です。この協定の意義は、学生間の交流ということはもちろんですが、地域社会に役立つ講座をどう連携しながら開催していくかということも重要な課題になっています。この構



さとうひでき
佐藤英樹氏
(西武文理大学学長)
昭和35年東京農業大学農学部卒業。昭和50年学校法人文理佐藤学園理事長に就任。平成11年から現職。この間、財団法人日本カナダ教育文化交流財団理事、国民体育大会候補選手強化特別委員、日本ホスピタリティ推進協会理事などを歴任。

想が実現すれば、市民の皆さんの選挙肢が広がります。ですからこの構想の実現は、市長のお考えにも応えられるものではないかと思っています。

市長 大学のありかたとして、地域に根付いた活動が、今後はより大きなウエイトを占めてくるということですね。

清水 そうです。さらに、構造改革でもうたわれていますが、国立大学の再編統合の方針が打ち出されています。今まではそれぞれの大学が独自に専門分野を抱えていたものが、ある程度同一分野で整理されてくるということ。また、私立大学についてもそれぞれの特色を生かしながら、協調して教育に取り組めば、もって地域社会に役に立てるのではないかと思います。

高橋 私どもの大学でも公開講座を実施しており、熱心に参加していただいています。生涯学習は物事の新しい視点を得ることが重要で、昔読んだ小説を今読んで、違った手応えを得るのと同じような気持ちで、市民の皆さんにも積極的に参加していただければと思います。

市長 そういったお考えは、市民にも行政にも本当にありがたいことです。これからの生涯学習の指導的な役割を大学、短大に担っていただけると、より専門性を持った講座なども可能になりますね。

2・身近な趣味の活動も立派な生涯学習の一つ

佐藤 ところで市長は絵を描か



たかはしのぶお
高橋暢雄氏
(武蔵野短期大学学長)
平成元年慶応義塾大学商学部卒業。平成6年から武蔵野中学校、武蔵野高等学校に勤務。平成11年学校法人武蔵野学院理事長、武蔵野中学校校長、武蔵野高等学校校長、武蔵野短期大学学長に就任。平成13年慶応義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得。

れるそうですね。

市長 趣味として描いています。絵にはその人の気持ちが表れるんですね。私は自分の好きな自然を、自分なりに解釈して描いています。私自身が描く楽しみを知り、もっと多くの皆さんにも趣味を持つてもらえるといいと考えてようになりました。

佐藤 市長はこれからは私たち市民も、できるだけ趣味を持ったほうがいいとお考えですね。

市長 はい。どんな趣味でもいいと思います。私は、自分が楽しむと同時に市民の展示会に出展もします。すると、あれ、これ市長の絵ですか。なんてびつくりされるんですよ。

佐藤 清水先生の趣味は何ですか。清水 私の趣味は自然を見ながら俳句を作ることです。平成2年に中央教育審議会でも、趣味の活動も生涯学習の一環であるという答申が出されました。生涯学習とは資格や単位を取るなど、大仰なものばかりではないのです。趣味の活動で自分自身を高めることは健康にもいいですし、非常に大切なことだと思いますね。

3・学生が安心して楽しく過ごせるまちづくり

佐藤 ところで、市長は学生が狭